札幌厚別高校のキャリア教育について

北海道札幌厚別高等学校
校長　　山　本　文　朗

1　学校概要

⑴ はじめに

本校は、中卒者の急増に伴い昭和58年４月１日、全日制普通科10クラスで創立された。

開校当初より芸術系を含む類型による教育課程が行われてきたが、平成 25 年度より北海道で唯一の芸術系列を有する「都市型・進学型」の総合学科へと学科転換し、現在のクラス数は21クラス（７クラス×３）である。

ア　校訓

「よく考え　まじめに　がんばる」（判断力　誠実　努力）

イ　部活動の状況

体育系11、文化系15の部・局・同好会があり、加入率は約76%である。

ウ　進路状況

大学・短大・専門学校など進学希望者が９割以上を占める。平成27年３月卒業生の進学者は、小樽商科大、北海道教育大、室蘭工大、釧路公立大、北海学園大、北星学園大など大学118名、短大22名、専門学校73名であった。

エ　生徒の状況・気質

全校生徒837名のうち、札幌市白石区・厚別区から６割強、その他の札幌市内と江別市から２割強、それ以外から１割程度である。気質は明朗で素直、良心的な行動を取る生徒が多く、指導にもよく従う。一方でのんびりと構えて自主性にやや欠け、教師へ依存する傾向もあるが、概して「伸びしろ」のある生徒が多いという印象である。

⑵ 学校教育目標（目指す生徒像）

未来にたくましく生きる人間を目指して

〇健康で、心豊かな人間
〇意欲的に学び、自ら実践する人間
〇生活を自ら律し、けじめある人間

知・徳・体の均衡の取れた指導により、生涯にわたって逞しく心豊かに生きる力を養い、「人に愛され、人にほめられ、人から必要とされ、人の役に立つ人間」の育成

⑶ 系列と特徴等

系　列	特　　徴　　等
人　文	主に国語・地理歴史・公民・外国語に関する科目を設置。人文科学系、社会科学系の上級学校を目指す生徒に適している。
数　理	主に数学・理科に関する科目を設置。自然科学系、看護・医療系の上級学校を目指す生徒に適している。
音　楽	ピアノ・管(打)楽器・弦楽器・声楽の４つの小系列を設置。音楽系および保育系の上級学校を目指す生徒に適している。
美　術	絵画・立体造形・クラフトデザイン・メディアデザインの４つの小系列を設置。美術系の上級学校への進学を目指す生徒に適している。

２　本校のキャリア教育

⑴ 全体像

目的：ア　自己理解を深め、学問研究、職業研究などを通して、自己の適切、的確な進路選択を可能にする能力、態度を育成する。

イ　社会の中で生きる自己を自覚し、将来社会の中で積極的に活動し、寄与していく意欲を育成する。

ウ　将来の自分を積極的に創造し、自己実現に向けて今行うべきことを認識し、充実した高校生活を送る態度を育成する。

１年次：産業社会と人間（２単位）、ＬＨＲ（１単位）　⇒　目的　ア、イ、ウ
２年次：総合的な学習の時間（１単位）、ＬＨＲ（１単位）　⇒　目的　ア、イ、ウ
３年次：総合的な学習の時間（２単位）、ＬＨＲ（１単位）　⇒　目的　ウ

⑵ 「産業社会と人間」における取組

自己理解、上級学校・職業調べ、科目選択の考察を中心に行い、生徒のキャリアプランニング能力を高める取組を行っている。

ア　自己理解

スタディサポートや学習状況リサーチ、進路適性検査等を通して自己理解を深める。

イ　「聞く力」「書く力」の育成

ノートテイキングセミナーやスタディスキル(作文学習や天声人語等を用いた基礎学習)を通して「聞く力」や「書く力」の基本的なスキルを高める学習を行う。また、具体的にキャリア講話や出前授業等の講演内容を記録シートにまとめることで確かな「学び」につなげていく。

ウ　「まとめる力」「発表する力」の育成

１年次生全員が北海道大学や北海道教育大学など、「人文」「数理」「音楽」「美術」４つの系列に沿った内容で大学の施設見学や模擬授業を体験する「大学見学会」では、事前学習を行い、見学後のまとめの内容についてクラス発表会を実施している。

【大学見学会の様子】

⑶ 地域性を素材とした取組

ア　系列横断的取組

２年次生の希望者を対象にしてインターンシップ及び職場見学を行い、キャリア教育の視点から仕事の意義や必要な資質等について考えさせる取組を行っている。北海道警察や医療施設、保育所や販売店など原則１日の実施で主に夏季休業中に実施していたが、今年度は小学校や特別支援学校なども加えて規模を拡大し、９月～10 月にも実施した。

【インターンシップの様子】
（北海道開拓の村）

イ　各系列の特色を生かした取組

12 月実施の「芸術系列校外発表会」では、音楽系列生徒による「音楽発表会」と、美術系列生徒による「美術作品展示会」を開催する。普段の学びの成果を発表する重要な機会となっている。

【音楽発表会】

【美術作品展示会】

⑷ 成果と課題

ア　成果

(ｱ) 低学年におけるキャリア教育を重視することにより、多くの生徒が自分の将来について高い目的意識を持つようになった。

(ｲ) 「聞く力」「書く力」といった基礎的汎用力を身につけることで、学力の向上につながる生徒が増えた。

イ　課題

(ｱ) 全教職員がキャリア教育という視点を持ち、より組織的な協働体制を確立する。

(ｲ) 教科科目や特別活動におけるキャリア教育との関連を整理する。

(ｳ) 総合学科におけるキャリア教育の意義や実践について、保護者や地域への十分な説明を行う。